

市史編さんだより

2008. 9. 2

〒229-0021

相模原市高根 3-1-19

電話 042-750-8025

FAX 042-750-8039

発行 相模原市総務局総務課市史編さん室

ホームページ: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

E-MAIL: shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

これってホント！？～動植物調査より～



自然分野では今年度、「自然編」本編とは別に、これまでの調査の結果をまとめた3冊の報告書の刊行を予定しています。このうち「動植物調査目録」は、旧市域で目撃されたり採集されたことで確認できた動植物

の記録集で、現在、編集作業に入っています。ここでは、この「目録」から幾つかの話題を紹介します。

◇サルがいた！

最初は、なんと旧相模原市域にニホンザルが出現したというものです。サルと言えば、最近では人間が住む里まで下りてきて、農作物を荒らすなどの被害の報道を耳にしますが、旧相模原市域にはサルが生息できるような山はありません。そのサルの群れが相模川河川敷で発見されたのです。調査員は、相模川の対岸の山から、かつて上大島の中洲に架けられていた橋を渡って本市側に来たものが、たまたま見られたのではないのかと推測しています。

◇ウグイは絶滅？

次に、通称ハヤの名で知られている、体側に出るオレンジ色の婚姻色が綺麗な淡水魚のウグイが、県東部・中部では分布が縮小し、県の準絶滅危惧種に指定されてい

るという事実です。カワウの増加などにより相模川でも数が減少しており、また、市域の境川には生息していないなど、かつては主だった河川のどこでも見られたウグイが絶滅の危機にひんしているということです。

◇南方系のガは何処へ

そして最後に、昆虫のガの種類のうち昔は多く採集できた南方系のものが、この調査では1頭も採集されなかったとのことです。地球の温暖化が話題にのぼるなか、増殖すると思われる南方系のガがいったいどこへ消えたのか謎だということです。

以上、紹介したのはほんの一例です。「自然編」が、どんな内容のものになるのか今から楽しみにお待ちください。

市民ボランティア 102人でスタート

石造物・景観調査



(調査方法の説明に、石造物が出現)

去る7月12日(土)、博物館を会場に石造物・景観調査の全体説明会を開催しました。

市史編さん室長、久保田相模原市公民館連絡協議会長のあいさつの後、市史編さん室神崎特別顧問の「調査のねらい」についての話と、「相模原の石造物と景観」と題した博物館長の講演が続き、これからの調査の進め方の説明、公民館区ごとの顔合わせを行い、散会となりました。

全体説明会後の各公民館区ごとの打合せは、7月19日の田名公民館区を始めに、8月29日までに全11館区で開かれました。チームの名前や役員を決めたり、調査の具体的な進め方が話し合われ、石造物の調査対象の範囲の確認や、写真の処理の仕方などについての活発な意見交換がありました。

この調査に当たる皆さんは、4月から6月にかけての呼びかけに応募した市民ボランティアで、78歳から16歳の高校生まで、総勢102人になりました。調査は9月からとじていますが、相原公民館区のように8月後半からすでに始めているところもあります。調査員は身分証をつけています。石造物の情報などありましたら、ご協力をお願いします。



(麻溝地区の打合せ)

調査員の皆さん、後世に記録を残すため、体調に気をつけて、よろしくをお願いします。

編さん室の動き 7月・8月

7/4日 自然部会(地形地質分野)	26日 近現代部会
6日 民俗部会	8/6日 社寺調査(橋本)
8日 歴史的公文書調査(城山町)	8日 市史編集委員会
9日 社寺調査打合せ	11日 自然部会(地形地質分野)
10日 歴史的公文書調査(藤野町・相模湖町)	12日 旧城山町の廃棄文書から歴史的公文書収集
11日 歴史的公文書調査(津久井町)	13日 社寺調査(橋本)
12日 石造物・景観調査説明会	15日 神史協研修会に参加
13日 考古部会	19日 民俗編聞き取り調査(大島)
18日 県公文書館資料調査	21日 しょうけい館(戦傷病者史料館)資料調査
19日 「現代通史編」内容検討小委員会	
24日 民俗編聞き取り調査(大島)	26日 社寺調査(橋本)

ある日の調査から _____ 「民俗編」

先日、「自宅の近辺にある石仏を記録したものがああるんですが」と、上大島に住む吉村さんから市史編さん室に連絡をいただきました。ご自宅に伺ったところ、それ以外にも上大島の昔のお話しについて聞くことができましたので、その様子を紹介します。

吉村さんのご自宅近くの段丘の下には湧き水があります。洗い場が 2 段になっていて、上段が食料の洗い場、下段がそれ以外の洗い物という、地域のルールを守りながら利用していたとのことでした。また、ご自宅には現在も蚕室と養蚕の道具が残っており、その頃の様子もお聞きすることができました。

その後、ご自身で調査を行った道祖神を案内していただきました。また、どんど焼きの時には、隣接する^{ほうそう}疱瘡神さまの小祠にお仮屋を作るという風習があったとのこと、疱瘡を軽くすると言い伝えられていたそうです。さらには、ご自身が大島諏訪明神の祭礼で演じられる獅子舞の舞手をされていた時のことについてもお話しを聞くことができました。



(疱瘡神の小祠と道祖神)

今回、お聞きしたお話しが多くが「民俗編」で調査対象となる項目でしたので、今後は、民俗部会の調査執筆員が専門的な聞き取り調査を進めていきます。

委員を再任 相模原市史編集委員会開催



(編集委員会の様子)

平成 20 年 8 月 8 日に今年度第 1 回の編集委員会が開催されました。

今回、編集委員の 2 年間の任期満了に伴い、全員に再任をお願いし委嘱（平成 20 年 8 月 1 日付）しました。委嘱した委員は、次の各氏です。（ ）内は担当部会

石井 篁（文化遺産）	岩野 秀俊（自然）
小川 直之（民俗）	加藤 修（考古）
神崎 彰利（文化遺産）	金原 左門（近現代）
栗田 尚弥（近現代）	清水 擴（文化遺産）
浜田 弘明（近現代）	町田 洋（自然）

また、互選により神崎委員が委員長に、金原委員が副委員長に選出されました。

会議では、今年 3 月の「現代資料編」の刊行を始めとして、文化遺産編の石造物・景観調査など、前回編集委員会開催以降の事業報告を事務局が行いました。また、自然部会の町田・岩野両委員から、本年度刊行予定の「自然編」について、地形地質分野および動植物分野の目次案の説明があり、「これは面白そうだ」と興味を引く構成にしたいという編さんの意気込みが語られました。

資料の生きるまで

第2回 虫干し・くん蒸

中には興味深い資料がたくさんあり、つい読み始めてしまうこともありましたが、気持ちを抑えて、次は資料のくん蒸です。これは殺虫・防虫のためですが、博物館で他の資料と一緒に行いました。こうして、資料は保管庫に収められ、永年保存が可能になるのです。今回の資料は20箱以上になりました。2日間のくん蒸作業を終えて資料が編さん室に戻ってくると、1点ずつ確認しながら目録作成の作業に取り掛かります。

(訂正：前号で坂本家の江戸時代の文書について、神奈川県立歴史博物館に寄贈されているとしましたが、正しくは貸与されているものでした。)

さて、相模湖町与瀬の坂本家から戴いてきた収集資料は、まず天気の良い日に虫干しを行いました。資料を一点ずつ取り出し、空気を通し、古紙に付着した埃やカビを布で落とします。



(市史編さん室前の駐車場で虫干し作業)



(瑞光寺のカヤの木)

先人たちの思いが今に ～文化遺産編予備調査始まる～

平成26年度刊行予定の「文化遺産編」に収録する、旧相模原市域にある社寺の建築物と古文書、彫刻、掛軸や絵画などについては、過去に「相模原市文化財現況調査報告書(昭和58年度発行)」としてまとめられた経過があります。市史統編の編さんにあたり既に四半世紀が過ぎているため、改めて調査を行うこととなりました。

去る8月6日・13日には、橋本地区の寺院3箇所を予備調査のために訪問しました。元橋本町の瑞光寺では門を入ったところに、幹が太くりっぱなカヤの木があるのが目に留まりました。住職さんのお話では、樹齢600年を越すもので、言い伝えによるとカヤの木は木目が細かく彫刻に適していて、次のご本尊を作るために植えられたものが今日に至っているとのことでした。「これも文化遺産の一つと言えるでは」などと思いながら調査を開始しました。

今回の予備調査の結果、先の報告書に掲載されていない資料も存在していることがわかり、今後の本格的な調査の必要性を強く感じたところです。

〰〰〰〰〰 好評発売中！「現代資料編」「現代図録編」 販売書店 〰〰〰〰〰

紀伊国屋書店相模原店(相模大野) ブックスアミ南口店(相模大野) 柴胡書房(文京) ブックス山田(松が枝町)
相模書房本店(相模台) 渡辺書店(相模台) 相模書房女子美術大学店(麻溝台) 久保田書店(千代田)
中村書店淵野辺本町店(淵野辺本町) 中村書店ダイエー店(上溝) 中村書店本店(横山) 三基書房(田名)
中村書店田名店(田名) 中村書店橋本店(西橋本) 有隣堂ミウヰ橋本店(橋本) カクダイ書店(二本松)
山本書店(津久井町中野) 敏正堂(相模湖町与瀬) ふじの書房(藤野町小淵)